

平成29年度
亀岡市立病院新改革プラン評価報告書

平成 30 年 8 月

亀岡市立病院経営審議会

1 はじめに

亀岡市立病院経営審議会(以下、「審議会」という。)は、亀岡市立病院(以下「市立病院」という。)における医療の質の向上と健全な経営を図ることを目的として、医療関係者、学識経験者、行政関係者、自治会関係者からなる外部委員で構成された経営審議会である。

今年度は、平成29年3月に策定された、亀岡市立病院新改革プラン及びアクションプランについて、市立病院が平成29年度プラン見込みと平成29年度病院事業会計実績見込み、医業指標値等を比較することにより、自らの経営状況を評価した自己評価に基づき、審議会において討議を重ねた。具体的な評価や意見等については、本編に示した。

2 新改革プランに対する点検及び評価結果

(1) 審議会としての具体的な評価方法

亀岡市立病院が策定した、「亀岡市立病院 新改革プラン・アクションプランの進捗状況(平成30年6月27日(水)平成30年度第1回亀岡市立病院経営審議会)」に示された自己評価について、本審議会において病院から各項目毎に説明を求め、内容を審議した。

取組に対する評価は、下記の基準で求め、特に委員から提言された意見を付した。

【評価基準】

A:プラン目標を概ね達成できている。

B:プランの目標に対して概ね達成したが、項目によっては取り組み内容の再検討が必要である。

C:プランの目標に対して、多くの項目が目標を達成することが出来ず、大幅な取り組み内容の修正や方向性の検討が必要である。

(2) 審議会評価

【総 評】

見込み値と実績値との乖離は少ないものの、プランの目標値を僅かながら達成していない項目も見られ、審議会総評として以下のとおりとした。

A-

【意見等】

病床機能について

- ・急性期病床と地域包括ケア病床の割合の再検討の必要性はあるものの、プラン目標は概ね達成できている。
- ・大方針を「現状の急性医療を維持し、回復期機能を強化した医療体制の構築と継続性のあるサービスを提供します」(15ページ)とあるが、病床利用率を見ると実績値が目標値を急性期では上回り、回復期では下回っている。急性期に対して一定の需要があることを示しており、市民のニーズを考慮した場合、今後急性期50床、回復期50床への移行を正当化するエビデンスが必要ではないかと考える。
- ・地域包括ケア病床の利用に関してもう一工夫が望まれる。
- ・地域包括ケア病床を何床持つのが適切であるか正確にはわかりませんが、29床まで増加させ病床稼働を上昇させるためには、高度急性期病院からの受け皿となるような患者さんも積極的に受けてゆくことも必要であると考えます。

収支について

- ・医業収支が、前年度および改革プランを大きく上回っている点を高く評価したい。
- ・医業収益の増収については、新改革プラン及びアクションプランに基づいた取り組みが効果を発揮し、目標を達成している。
- ・医業費用においては材料費は堅実な抑制効果を示したものの、給与費、経費は増えており、この部分での抑制努力が望まれる。

- ・病棟の一部を「地域包括ケア病床」へという方向性と職員の努力により病床稼働率の上昇が見られ病院の収支は改善し、その点は大きく評価すべきと考えられますが、なお市からの負担金が必要な状況であるため引き続き職員一丸となり改善努力の継続が必要と考えられます。
- ・医業費用の抑制の面では、給与費や委託費について目標に届いていないことから、更なる取組の強化が必要である。

医療機能(入外、手術等)について

- ・入院、外来における医業収益は着実に増収を示して計画的努力が認められる。
- ・外来患者数について、適正化されているとはいえ大きく減少しているため、数値上の評価は「A」だとしても本当に問題がないのか再検討する必要があるかと考える。
- ・病院の収益を上げるにはより専門性が高い外来診療を行い紹介率を高め、また検査、手術の件数を増やすことが最も効果的と認識しております。
- ・手術件数と救急患者数の減少がとても気になります。
- ・空きベッドを利用してレスパイト入院の積極的な受け入れをして頂くか、外傷等にて急に日常生活が困難になった独居老人等の保存的治療対象患者の短期入院の積極的な受け入れをして頂ければ助かる人が多いのではないのでしょうか。

目標設定、取組内容等について

- ・翌事業年度(進行事業年度)の財務目標が相当高く設定されているので、数値目標の達成にこだわり医療品質やサービスが低下しないよう留意いただきたい。
- ・紹介・逆紹介率も向上し地域の医療機関との連携も進められており、その点も高く評価されますが、さらに地域医療機関や医師会や施設との連携を深めて紹介患者を増加させてゆく必要があると考えます。

救急医療に対する姿勢について

- ・救急受け入れについて、外科医師などのように積極的な意見もあるが、全体的に見れば救急利用を充実させるような積極的な意見は少ない。
- ・マンパワーを考えると決して少ない受け入れ数ではありませんが、今後地域の他病院とのすみ分けを考慮しある分野に特化したり準夜帯を意識した救急を指向する必要があるかもしれません。特に今後増加する高齢者の肺炎や骨折に対応することは非常に重要と考えます。

健康講座など啓蒙活動について

- ・現在行われている市民への啓蒙活動や情報提供活動は今後も継続的に行うことは非常に重要であると考えます。

内部統制等について(診療・部門別ヒアリング)

- ・実績、目標に係る全体的なコメントでは、診療科により否定的な意見と肯定的な意見が様々であり診療科毎に評価の乖離がある。
- ・実績、目標にかかる全体的なコメントでは医師の間でコメント内容の積極性にバラツキが見られる。
- ・病院長からの提案事項が述べられていることは大変適切と思う。ただ、これらの提案事項がどのような形でそれぞれの医師に伝わり、どのような形でアクションプランの改善に役立っているのか不明である。今後、システムとして機能していくよう期待する。
- ・看護師を含めて病院の主体がそれぞれどのように改革プランに関わっているのかなどのガバナンスが見えてこない。今後、ガバナンスの構築も必要と考える。

平成30年8月10日

亀岡市立病院経営審議会

会長 伏木 信次



【附属資料】

亀岡市立病院経営審議会委員名簿

(敬称略・順不同)

氏 名	役 職	備 考
伊多波 良雄	同志社大学 経済学部教授	
吉村 了勇	京都府立医科大学 元附属病院長 名誉教授	副会長
森戸 俊典	亀岡市医師会 会長	
伏木 信次	京都中部総合医療センター 総長 京都府立医科大学名誉教授	会長
新井 英植	公認会計士	
廣畑 弘	京都府南丹保健所 所長	
石野 茂	亀岡市 副市長	
山本 眞之介	亀岡市自治会連合会 副会長	
若園 吉裕	京都桂病院 院長 京都大学臨床教授	

審議会開催状況等(平成29年度～30年度)

開催場所:市立病院ウエルネスホール

開 催	日 時	内 容
平成29年度第1回 亀岡市立病院経営審議会	平成29年8月22日(火) 午後2時00分～4時00分	・平成28年度 病院事業会計決算見込みについて ・アクションプラン(第1四半期)について ・その他
平成29年度第2回 亀岡市立病院経営審議会	平成29年11月10日(金) 午後2時00分～4時00分	・アクションプラン(第2四半期)について ・その他
病院内説明会 (全職員対象)	平成29年12月6日(水) 午後5時30分～6時30分	・新改革プラン・アクションプランの上半期実績報告 ・2018年度診療報酬・介護報酬同時改定について
平成29年度第3回 亀岡市立病院経営審議会	平成30年2月27日(火) 午後2時00分～4時00分	・アクションプラン(第3四半期)の報告について ・新改革プランの「収支の見通し」の再考 ・その他
病院内説明会 (全職員対象)	平成30年5月1日(火) 午後5時30分～6時30分	・新改革プラン・アクションプランH29年度実績報告会
平成30年度第1回 亀岡市立病院経営審議会	平成30年6月27日(水) 午後2時00分～4時00分	・新改革プラン、アクションプランの進捗状況について ・その他